



2022 年度
第 21 号

体育市民連帯 ニュースレター

大韓民国スポーツの

根本的变化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？

1
体育市民連帯コラム
ナ・ジンギョン共同代表
大韓体育会長は
毎日出勤していますか

2
「価値志向」
見えない
新政権の
スポーツ政策



3
KUSF、人権に優しい
大学スポーツ文化
づくりのための
スポーツ人権講師養成



4
陸上セメニャ
男性ホルモンの
数値を下げる薬
拷問のレベルだった



5
国民体育振興公団
小商人市場振興公団と
スポーツ社会的価値の
拡散へ



01 体育市民連帯コラム ナ・ジンギョン 体育市民連帯共同代表 大韓体育会長は毎日出勤していますか。

2014年と記憶する。当時、大韓野球協会会長だった李ビョンソク国会副議長に業務報告のために国会に毎週訪れた記憶がある。(当時、私は協会事務局長を務めていた) 野球ファンだった李ビョンソク会長は、国会議員の体育団体兼職禁止法が発効し、職を辞めるまで一生懸命会長職を遂行した。これまで何人かの体育団体長をそばで見守ってきた私としては、当時国会副議長だった李ビョンソク会長の業務スタイルに大いに感動を受けた。ソウル市体育担当課長に直接電話をかけ、数十回にわたって木洞野球場のアマチュア野球専用球場化のために努力する姿は、私には見慣れない姿だった。これが韓国体育の現実だ。体育団体長が所属団体に出勤したり、直接熱心に働くことがかえって突拍子なく感じられ、感動まで受けることになるのが韓国体育の現在の姿と言える。

最近 KBO 総裁に就任した許グヨン解説委員の業務スタイルが野球界では話題になっている。毎朝早く出勤して直接業務を遂行するので、これまで経験したことのない光景に接する KBO の役職員としては大変だと感じられるようだ。プロ連盟も同じだ。なぜ体育団体はプロ、アマを問わず一律に首長が出勤して直接仕事をするのが生々しい風景になったのだろうか。

昨年、私は大韓野球ソフトボール協会会長選挙に出馬し、結果は落選した。25%程度に過ぎない支持を受けたが、それなりに意味のあることだった」と自らを慰める。選挙には負けたが、多くの野球人が私が約束した「毎日出勤して仕事をする会長」になるという約束に少なからず刺激を受けたようだ。組織に携わっている人が毎日出勤するのがあまりにも当然のことだが、体育団体長の出勤はまだ体育人には珍しい姿だ。ただ後援金を少し(?)出して、たまに連盟や協会の役職員たちが食事をし、授賞式に参加して賞牌を渡すだけが、韓国体育団体長の現在の姿だ。今もソウル市体育会が位置している中浪区のソウル市野球ソフトボール協会に常勤し、毎日出勤しているが、他種目の協会長が出勤する協会は見られない。ソウル市体育会や野球ソフトボール協会も同じだ。

それなら、韓国体育の首長である大韓体育会長はどうだろうか。残念ながら毎日出勤をして直接業務を遂行することはできないようだ。一度誤った慣行が定着すると、韓国体育界はこのような慣行が当然と思われる雰囲気が出たようだ。それぞれそれなりの組織運営に対する特性があり、することも違うので、一括してすべての体育団体が出勤する会長が必要なわけではない。しかし、どの分野も該当組織の長が直接出勤して仕事をするのは極めて常識的なことだ。国内屈指の財閥企業や団体も年配の会長が毎日出勤し、会社の仕事を処理するのを見ることができる。彼らにとっては当たり前のことだ。なんで? 自分の会社だからだ。そのために自分が直接取り仕切って結果に対する責任も負うのだ。

チェ・スンシル、チョン・ユラ事態以後、ここ数年間体育界は相当な変化を成し遂げた。各種定款、規定の改正とスポーツ公正委員会とスポーツ倫理センターの厳格な規定適用などは、体育現場の構造的矛盾と不正を除去するのに非常に鼓舞的なことだ。しかし、このような変化に歩調を合わせて団体長および会長、役職員と関連した誤った慣行も変わらなければならない。

団体の首長が正しいことをできるようにすることは、主人意識と過程の公正性、結果に対する適切な責任を負わせることだ。

2016年の専門体育と生活体育の統合以後、統合による後遺症で数年間体育界が疲弊している。解決の糸口をつかんでいく第一歩は体育団体長の常勤化だと思う。連盟や協会がたまに出て行く組織から脱皮することを期待している。主人意識がなければ、毎日出勤して働けないなら連盟会長や協会長を務めてはならない。このような常識的なルールが適用される体育界になってこそ、今後韓国体育が変化し、実質的な発展も実現すると考える。韓国体育界がもう一段階成長するための出発点はまさに「団体長の正常出勤」だ。

2022. 05. 24

体育市民連帯共同代表 ナ・ジンギョン

02 毎日労働ニュース 2022. 05. 30 チョン・ユンスのスポーツと労働 「価値志向」見えない新政権のスポーツ政策



新政府のスポーツ政策の輪郭が少しずつ明らかになっている。しかし、どのような方向と速度かは明らかではない。国家レベルでスポーツ政策を総括する文化体育観光部長官と次官も任命され業務を開始したが、新政権発足から1ヵ月近く経っているこの時点で、明確な価値志向が見られない。言論界出身が長官として入閣し、かつて大韓体育会事務を総括したとはいえ、長い間企画財政部公職を受け持ってきた人物がスポーツ政策を直接管掌する次官になった。ところがこの長官・次官の経歴を多少機械的に圧縮してみれば、スポーツ政策の複雑性と微妙さを顕微鏡のように把握しているのか疑問だ。

もちろん長・次官は実務事案を綿密に把握し立案するのではなくマクロ的次元で政策を決定し推進する立場ではある。ところが長官は、次官まで官職生活の大部分を企画財政部で活動した人物が引き受けることになったということは、スポーツ政策の重要な事案が未来指向的な国家的次元ではなく、現在の状態の請願窓口に縮小される恐れがある。顕微鏡で把握できなければ、未来志向的な望遠鏡も持つことができない。スポーツ革新委の勧告案に「ブレーキ」

ひとまず、新政府が提示した主要スポーツ政策を見ると、①専門体育マルチソース養成システム支援 ②実業チーム運営支援拡大を通じた専門体育活性化 ③「体育人共済会設立」で体育人福祉向上及び雇用創出 ④スポーツ後援を活性化できる制度的支援強化 ⑤体育財政拡大及び体育界支援強化 ⑥実効性のあるスポーツ人権問題申告-処理システム構築 ⑦体育界現実と合わないスポーツ革新委員会勧告案の見直しなどだ。

最後の⑦番を除いて、残りの大部分はどんな性格の政府でも当然推進しなければならない一般的事案だ。これらの政策は△生涯周期年齢帯を埋める政策 △公共と民間連結 △専門選手と生活体育人の好循環構造構築 △融合・複合化・市場化・産業化の追求など具体的な事業につながる。多様化と産業化に圧縮され

るこれらの事業も 21 世紀の社会構造変動により、これまでスポーツ界の内外で自然に導き出された一般的な政策課題と言える。

それなら残るのは「体育界現実と合わないスポーツ革新委員会勧告案再検討」だ。大統領職引継ぎ委員会の金ドシク引継ぎ委員と李ヨン議員（国民の力）の首席補佐官である文スンヒョン実務委員が 6 回の体育界懇談会を通じて「現場」の声を聞き、主要課題を導き出したというが、まさにこの地点、すなわち「現場の声」を検討してみる必要がある。

スポーツ革新委の活動はショートトラック選手に対するコーチの暴行・性的暴行事件を契機に 2019 年 1 月に始まった。2020 年 6 月にはトライアスロン国家代表出身の故崔スクヒョン選手がチーム関係者の過酷行為で自ら命を絶つことが発生した。スポーツ革新委は既存の国家スポーツ政策が 21 世紀の社会構造変動はもちろん、スポーツに対する多様な社会的期待と国際オリンピック委員会 (IOC) のような国際機関が追求する未来のスポーツ価値とかけ離れていると判断した。このギャップによって数多くの選手が苦痛を受けているという認識により、計 7 つの勧告をして活動を終えた。

その勧告は現場指導者と選手に直ちに適用されにくい側面もある。いわゆる「現場の声」が概して革新委の勧告に反対する雰囲気や形成されたこともまた否定できない。とはいえ、革新委の勧告が直ちに政策になるわけではない。したがって勧告の根拠と価値を維持するものの、多様な意見が提示され熟議され繊細に政策化する過程が展開されなければならなかった。しかし、そのような過程が省略されたり中断されたまま時間が流れ、今や政権が変わり勧告案全体を再検討する状況に至った。

「現場」の声、きちんと反映したのか

繊細に見れば、新政府が明らかにした政策課題と革新委の勧告は互いに上位となる部分が少なくない。指導者と選手の処遇改善や既存のメダリスト中心の福祉政策を体育人全体に拡散する普遍的福祉への改善などは、革新委の 7 次勧告案にすべて含まれている内容だ。

核心は革新委の 2 次勧告、すなわち学生選手たちの学習権・文化圏・社会権などに関連したものだ。ところが、新政府はこれを他の方向または以前の方向に旋回すると明らかにしたのだ。いわゆる「現場の声」を根拠にしたものだ。

政策を企画したり決定する時によく「現場に答がある」と言うが、これを機械的に適用するよりは慎重に接近しなければならない。物理的環境や処遇も「現場」だが、該当分野の従事者と核心関連者の「考え」も「現場」だ。どんな価値でどんな志向をするのか、それが「現場」だ、

現在聞こえてくる「現場の声」はエリート選手の運動する権利に圧縮できる。慎重に傾聴し多様な要因を複合的に判断しなければならないこの「現場の声」は、一方で不便な現場状況を隠す側面もある。

このような論争が発生する度に取り上げられている事例が卓球のシン・ユビン選手だ。高校進学代わりにプロの道を選択したシン・ユビン選手は現在、手首の手術を控えている。昨年 11 月に負傷したが、6 カ月ぶりに再発した。彼が高校進学代わりにプロに直行して負傷したとは言えない。全く因果関係がない。とはいえ、まだ 18 歳のシン・ユビン選手が色々な勉強と経験を通じて多様な社会的関係を結び成長する代わりに「現場」で活動して負傷したという事実自体は残念なことだ。シン・ユビン選手と直接的な関連はないが、彼の所属チームである大韓航空卓球団が監督とコーチなどが重懲戒を受けるほどいじめ事件の「現場」になったこともただ一つの球団のことは見られない。韓国卓球を代表する柳スンミン IOC 選手委員は、これまでスポーツ界で起きた様々な問題を「一部の逸脱」と言ってきたが、気軽に同意しにくいそのような「考え」もやはり「現場」だ。

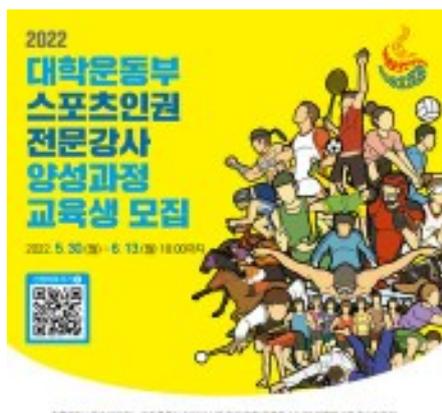
このように「現場」は複雑でデコボコしている。国家政策は、このような現実の複雑性の中で未来的価値を導き出さなければならない。そうでなくいわゆる「現場の声」という根拠で一種の苦情事項を国家政策化するならば、それ自体で「現場」の複雑性を反映できないだけでなく、色々な重大なスポーツ政策も空回りさせる恐れがある。

スポーツ評論家 (prague@naver.com)

出典：<http://www.labortoday.co.kr/news/articleView.html?idxno=209166>

03 韓国大学新聞 2022.05.28

KUSF、人権に優しい大学スポーツ文化づくりのための「スポーツ人権専門講師養成課程」推進



韓国大学スポーツ協議会(会長チョン・ジンテク高麗大学総長、以下KUSF)は大学スポーツ人権文化造成のために「大学運動部スポーツ人権専門講師養成課程」を2022年度新規事業として推進・運営する。この事業は大学運動部に対する理解度、スポーツ人権と関連した経歴を持つ者を対象に用意した専門性特化専門講師養成課程だ。昨年KUSFが開発・制作した大学運動部人権教育教案を中心とした大学スポーツの人権基本知識、学年別大学運動部人権教育教案と専門講師実戦講義デモなどで構成されている。

今回の大学スポーツ人権専門講師養成課程は5月30日から6月13日まで申請受付予定であり、KUSFは書類選考、講義映像・面接審査を経て7月初めに最終合格者10人余りを発表する予定だ。

大学運動部のスポーツ人権専門講師は2022年7月末から大学運動部の学生選手を対象に計60回大学スポーツ人権教育を専担し、学生選手たちに人権感受性などを伝える役割を果たすことになる。

KUSF側は「今回の大学運動部スポーツ人権専門講師養成課程を通じて大学運動部学生選手を対象に実質的な現場を重点的にしたスポーツ人権教育を実施することにより、学生選手たちが運動と学業を楽しく、平等に、安全に、差別なく生活する人権に優しい大学スポーツ文化を作る」と明らかにした。

今回の大学運動部のスポーツ人権専門講師募集関連内容と支援申請は、KUSFホームページ

(<http://www.kusf.or.kr>)で確認でき、KUSFが主管し、文化体育観光部と国民体育振興公団が後援する。

出典：<http://news.unn.net/news/articleView.html?idxno=528862>

04 聯合ニュース 2022.05.24

陸上セメニャ「男性ホルモンの数値を下げる薬、拷問のレベルだった」

男性ホルモン数値をめぐる世界陸上連盟と法廷攻防を繰り広げるキャスター・セメニャ(31、南アフリカ)が、「世界陸上連盟が長い間、私を身体的、精神的に抑圧した」と主張した。



英国デイリーテレグラフは24日（韓国時間）、近く米HBOで放送される「セメニャ・インタビュー」を一部公開した。

セメニャは「世界陸上連盟の関係者は私に『男性の性器』があると信じていた。それで私は「私の裸体を見せる」と話した。このような事例は数え切れないほど多い」とし「女性として生まれた私は2009年から常に私が女性だということを証明しなければならなかった」と話した。

セメニャは2012年ロンドン五輪と2016年リオデジャネイロ五輪で陸上女子800m2連覇を達成し、世界選手権大会でも3回800mチャンピオン（09年ベルリン大会、11年大邱大会）に上がった。

しかし、現在セメニャはメイン種目の800m競技に出場できない。

世界陸上連盟は、2016年のテストステロン数値が一定基準以上であれば、女子部の競技に出場できないと規定した。

スポーツ仲裁裁判所(CAS)はリオ五輪を控えて「世界陸上連盟規定は根拠が足りず差別論議がある」として規定発効を阻んだ。劇的にリオデジャネイロオリンピックに出場したセメニャは800mで優勝した。

しかし、世界陸上連盟は2018年11月に400m、400mハードル、800m、1500m、1マイル(1.62km)女子部の競技出場基準をテストステロン5nm/L以下に決めた。

一般女性のテストステロン数値は0.12~1.79nm/L、男性は7.7~29.4nm/Lである。

公開したことはないが、多くの専門家がセメニャのテストステロン数値を7~10nm/Lと予想する。

セメニャは「私を狙った規定」と激怒し、CASに提訴した。

今回はCASが世界陸上連盟に軍配を上げた。スイス連邦裁判所の選択も同じだった。結局、セメニャは2019年ドーハ世界選手権大会と昨年行われた2020東京オリンピックに出場できなかった。

セメニャは欧州人権裁判所に舞台を移して裁判を続けている。審理期日が決まっていないが、今年中には結論が出る見通しだ。

セメニャは「私が2009年ベルリン世界選手権大会800mで優勝した後、世界陸上連盟が私を圧迫し始めた。ベルリン大会直後には病院に行って「性別検査」を受けた」と明らかにした。

世界陸上連盟は2010年、セメニャに「テストステロン数値を下げる薬を飲んでこそ試合に出場できる」と通知した。

2010~2015年、セメニャは世界陸上連盟の指示に従った。

彼女は「五輪に出場するために苦痛を我慢しながら薬を飲んだ」とし「私は途方もない副作用に苦しんだ。パニック発作を経験し、心臓にも問題が生じた。毎日ナイフで私を刺すような気分だった。拷問のレベルだった」と振り返った。

国際オリンピック委員会（IOC）は昨年11月、「国際大会出場のためテストステロン数値を人為的に下げる必要はない」という新しい勧告案を出し、2023年から発効することにした。

しかし、出場資格決定は競技団体に任せた。

世界陸上連盟は「400m、400mハードル、800m、1500m、1マイル（1.62キロ）のテストステロン出場基準を維持する」と明らかにした。

セメニャも世界陸上連盟との争いを続ける計画だ。

出典：<https://www.yna.co.kr/view/AKR20220524063200007?input=1195m>

05 ネクストデイリー 2022.05.30

国民体育振興公団、小商工人市場振興公団とともに スポーツ社会的価値の拡散へ



国民体育振興公団(理事長チョ・ヒョンジェ、以下公団)は27日、小商工人市場振興公団(理事長チョ・ボンファン、以下小商工人市場振興公団)と社会的価値拡散のための業務協約を締結したと明らかにした。

今回の協約式には公団のオ・ジャンス経営革新本部長、

小商工人振興公団のイム・ジュンミンソウル江原地域本部長が参加し、両機関はスポーツを活用した小商工人支援拡大および伝統市場活性化などに相互協力することを約束した。

両機関は▲スポーツ分野の小商工人支援プログラム開発 ▲伝統市場商人および小商工人対象体力増進サービス支援 ▲伝統市場活性化のための協業プログラム運営など協力を続けていく予定だ。

公団のオ・ジャンス経営革新本部長は「今回の小商工人市場振興公団との業務協約を通じて伝統市場商人と小商工人の方々のスポーツ福祉向上を支援することができて嬉しく、今後も公団は色々な分野の機関と共に社会的価値拡散のための協力活動を繰り返し続けていく」と伝えた。

出典：<http://www.nextdaily.co.kr/news/articleView.html?idxno=206444>

06 週刊スポーツニュース

ユン大統領、ソン・フンミンに体育最高勲章「青龍章」を直接授与する。

http://news.tvchosun.com/site/data/html_dir/2022/05/30/2022053090183.html

障害者体育活動の社会経済的効果…約1兆4千億ウォン

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20220530103300007?input=1195m>

大韓体育会、国家代表の歌王選抜戦開催…レスリング、ノ・ヨンフン1位

<https://star.mt.co.kr/stview.php?no=2022053014520822993>

面接質問資料を流出した元体育会役員ら2人の執行猶予・罰金

https://newsis.com/view/?id=NISX20220526_0001886188&cID=10814&pID=10800

京畿道障害者体育会、「2022 上半期の市・郡障害者体育会職員職務教育」開催

<https://www.kgnews.co.kr/news/article.html?no=704009>

国民体育振興公団、不法スポーツ賭博民間モニタリング団発足式を開催

<http://mksports.co.kr/view/2022/476923/>

体育教師を夢見るならば志願資格・実技可否を確かめてみてください。

<http://www.segye.com/newsView/20220525526884?OutUrl=naver>

国民体育振興公団、「非対面スポーツコーチング市場活性化支援事業」の参加者募集

<https://www.spotvnews.co.kr/news/articleView.html?idxno=527130>

国民体育振興公団、未来スポーツ人材養成のための専門教育課程運営

<https://www.spotvnews.co.kr/news/articleView.html?idxno=527077>

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。

私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>